

環境研究の最前線

環境研究総合推進費は、持続可能な社会構築のための環境保全に資することを目的とした政策貢献型の競争的研究資金です。平成23年度に終了した環境研究総合推進費の研究課題の中から、国民の皆様に関わりやすく、関心も高いと考えられるものを選んで、成果発表会を開催します。

環境研究の最前線に関心をお持ちの皆様、研究成果の活用を検討されている自治体・企業の皆様、環境研究総合推進費への応募をお考えの研究者の皆様など、幅広い方々のご来場を心よりお待ちしております。

日時 平成24年10月19日(金) 13:00～17:00(開場 12:30)

場所 都道府県会館1階101大会議室 (東京都千代田区平河町2-6-3 裏面の地図参照)

定員 120名(先着順)

参加
無料

プログラム

13:00～13:10	開会 主催者挨拶 環境省	
13:10～13:45	観測データとモデルの融合化によって 黄砂発生量変動の謎を解く	西川 雅高 (独)国立環境研究所 環境計測研究センター 環境計測化学研究室長
13:45～14:20	地球温暖化対策: 主要国が参加できる国際合意は見つかるか?	亀山 康子 (独)国立環境研究所 社会環境システム研究センター 持続可能社会システム研究室長
14:20～14:55	クマの数を調べる、森には何頭いるのか	米田 政明 (一財)自然環境研究センター 研究主幹
14:55～15:10	休憩(15分)	
15:10～15:45	自動車排ガスに含まれる微量有害物質の 最新測定方法	山田 裕之 (独)交通安全環境研究所 環境研究領域 主席研究員
15:45～16:20	胎児へのPCBやダイオキシンのばく露を 減らす女性のよりよい魚介類の食べ方	仲井 邦彦 東北大学 大学院医学系研究科 教授
16:20～16:55	身近な製品に含まれる難燃剤の化学リスク	滝上 英孝 (独)国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター ライフサイクル物質管理研究室長
16:55～17:00	閉会挨拶 閉会	



西川 雅高 (にしかわ まさたか)
大気および地下水・土壌汚染のモニタリング研究、環境分析標準物質の開発研究など、幅広い研究活動に従事。特に、黄砂に関するフィールド研究では、広大な黄砂発生地域を延べ3万km以上踏査した経験を持つ。



亀山 康子 (かめやま やすこ)
1990年東京大学教養学部卒。1992年環境庁国立環境研究所(当時)入所以来、現在に至る。2011年より東京大学大学院新領域創成科学研究科客員教授。主な著書に「新・地球環境政策」(昭和三、2010年)等。



米田 政明 (よねだ まさあき)
1950年京都生まれ、北海道大学農学部博士課程修了、農学博士。JICA客員専門員。クマ類を含む野生動物の保護管理および保護地域計画に関わってきた。



山田 裕之 (やまだ ひろゆき)
2005年3月に東京大学大学院工学系研究科博士課程を修了し、2005年4月に交通安全環境研究所に入所。自動車排出ガスに含まれる有害物質の評価および測定手法の開発に従事。PMIに関する新たな評価法を話し合う国連欧州委員会PMPワーキングの国内とりまとめ。



仲井 邦彦 (なかい くにひこ)
1987年北海道大学環境科学研究科修了。学術博士。コーネル大学、東京大学を経て、2010年より現職。胎児期・新生児期の化学物質ばく露の健康影響に取り組む。東日本震災後は、環境調査とリスクコミュニケーションを開始。



滝上 英孝 (たきがみ ひでたか)
専門は資源循環・廃棄物処理過程における有害化学物質の挙動と制御に関する研究で、特に有機ハロゲン化合物についてPCB、ダイオキシン類、臭素系難燃剤を研究対象としてきた。

※環境研究総合推進費の平成25年度新規課題の公募を行います(10月上旬～11月中旬予定)。詳しくは環境省HP内の環境研究総合推進費サイトをご覧ください。

(「推進費」で検索。<http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/gaiyou/index.html>)

※成果発表会の様子は、後日、環境省HPに掲載予定です。

